算数における

他者を意識した自己説明を促す授業の実践

教育実践高度化専攻　地域・教育課題解決コース
ICT 活用・科学ものづくり推進系
河合　晃輝

本研究は，算数科において他者を意識した自己説明を促す授業上の手立てを構成し，その効果を検討することを目的とした．全国学力・学習状況調査において，学力が高い児童でも算数に自信をもてない実態が示されていることを踏まえ，説明経験の不足が理解の確信形成に影響している可能性に着目した．

第 4 学年 26 名を対象に，「式と計算の順じょ」および「面積」の 2 単元で，説明の仕方・聞き方を 3 段階で示したルーブリックを活用し，児童同士が式・図・言葉を用いて考えや公式の意味を説明し合う活動と，自己評価や振り返りを組み合わせた授業実践を行った．アンケート結果から，説明に対する意識には個人差が見られたものの，自己評価では説明・聞き方のレベルが向上し，振り返りの記述量も増加した．また，他者の説明を参考に自分の考えを改善しようとする内省的な学習行動が広がった．以上より，他者を認知的手がかりとして活用する自己説明は，児童が理解を再構成し，自己調整的に学習を深める上で有効な授業方略となる可能性が示唆された．